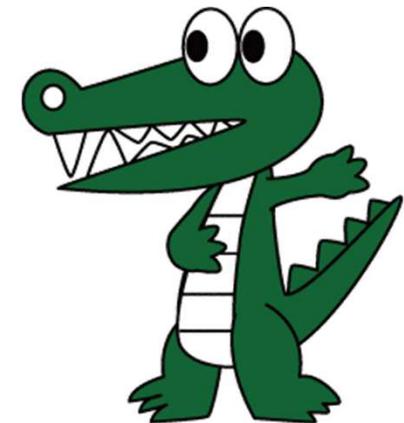




図書館ネットワークの未来を考える ワークショップについて 第2回

令和4年（2022年）10月

豊中市



本ワークショップのテーマ

- ◆ 本ワークショップでは、下記の4つのステップで図書館に関わる、「市全体の公共施設の状況」「図書館のネットワーク」「中央図書館の場所や適地」について皆さまにご議論頂く予定です。

STEP 1 【前回】

【第1回】 (R4. 10. 13) →終了

<目的> 図書館の現状と基本構想の内容、豊中市全体の公共施設の状況を理解する

STEP 2

【第2回】 (R4. 10. 27) →本日

<目的> 図書館ネットワークについて考える

STEP 3

【第3回】 (R4. 11. 10)

<目的> 中央館の場所について考える

STEP 4

【第4回】 (R4. 11. 24)

<目的> 中央館の適地において重視すべき要素を考える

本日の流れ

本日のワークショップは、全体で約120分を予定しています。

ワークショップの次第は下表のとおりです。

※本日は中央館・地域館・分館に対する期待を中心にお話いただきます。

18:30	(5分)	開会
18:35	(10分)	第1回ワークショップの振り返り
18:45	(10分)	ワークショップのテーマ
18:55	(5分)	ワークショップの進め方
19:00	(60分)	テーマ：中央館・地域館・分館に対する期待
20:00	(20分)	本日のまとめ・発表
20:20	(10分)	閉会・次回の予定

【前回の発表・アンケートについて】

定刻通りの司会進行、ニューヨーク公立図書館のご紹介

※本日のご意見もアンケートにご回答ください



第1回ワークショップの 振り返り



第1回ワークショップの振り返り【実施内容】

- ◆ 自己紹介や図書館への思い、今後の図書館への期待、基本構想へのご意見についてお話いただきました。
- ◆ 頂いたご意見を基本構想の基本方針との関係を整理しました。

(基本方針1) すべての市民の「わたしの図書館」へ ～図書館の多様な利用を提案～

サービスポイント設置等、利便性確保による
利用者層の多様化

学校連携・アウトリーチ等
特徴的な取組みの維持

これからの生活様式に即した
非来館型サービス

「場としての図書館」の効果的な活用

(基本方針2) 知や情報とつなげる ～資源を生かし、市民の情報アクセスを保障～

(仮称) 中央図書館を中心とした
サービス網の構築

デジタル化社会に対応した、
多様な媒体による情報の提供

政策課題や地域課題に
対応する情報の積極的収集

人と人、人と情報をつなぐ
担い手の育成

(基本方針3) 未来へつなぐ ～持続可能な組織の構築～

事業コストを意識した運営計画
(目標設定と行程の明確化)

計画的な施設の更新改修と再編

公民連携や自治体間連携の
強化による効率的な管理運営

ICTの積極的な活用による人員配置

第1回ワークショップの振り返り【A班】

◆ 基本構想から幅広い利用・利便機能、現状維持、民間活用等へのご意見

◆ 市民の意見（基本構想）

- 市民の意見をしっかり聞いてほしい。
- 基本構想自体が知られていない。
- 図書館からの声掛けや周知が必要。
- 問題に対して市民が答えていくという形で、市民を計画に巻き込んでほしい。

【ポイント】

市民への周知、市民主体のまちづくり

◆ 幅広い方が利用

- 幅広い年齢の方に利用してほしい。
- 働いている方や20・30代が来れる。
- 交通面で移動が不便な方への配慮。
- 参加型イベントなど、図書館に行きたいと思えるような工夫。
- 中央図書館は豊中駅の近くなど、利便性の高い場所にあること。

【ポイント】

利用者の幅広さ、利便性の高さ

◆ 利便機能

- 小学生の見学サービスなど、貸出カードを作成する機会を設ける。
- 通訳者の配置
- CD/DVDの導入。
- 会話できるスペース。
- 利用人数の制限緩和。

【ポイント】

気軽に利用できる図書館、多目的な用途

◆ 現状の維持

- 歩いて行けるとところに図書館があることが大事。
- 近いところがないと足が遠のく。
- 学校図書館から公共図書館へつながり、生涯学習の場となっている。
- 減少すると学校図書に影響あり。
- 地域を育てる図書館。

【ポイント】

身近にある図書館、学校図書館との連携

◆ 民間の活用

- 民間を活用した図書館の運営。
- 予算・維持費ありきの図書館ではなく、もっと効率化を図る必要がある。

【ポイント】

公民の連携、効率化

(基本方針1) すべての市民の「わたしの図書館」へ
～図書館の多様な利用を提案～

(基本方針2) 知や情報とつなげる
～資源を生かし、市民の情報アクセスを保障～

(基本方針3) 未来へつなぐ
～持続可能な組織の構築～

第1回ワークショップの振り返り【B班】

◆ きっかけやアーカイブ、地域、スペース・場所、運営・寄付等へのご意見

◆ 知るきっかけ

- きっかけや喜びを提供する場所。
- 多様な人の存在を知り、外の世界と接触できる場所。
- 1冊の本できっかけや喜びを提供。
- 情報リテラシーの育成。
- 購入図書を選別

【ポイント】

情報リテラシー、知識の広がり

◆ アーカイブの活用

- 生涯学習の場として中核の図書館。
- 文教の街にふさわしい施設。
- 図書館アーカイブと芸術センターとのつながり。
- ニューヨーク公共図書館のような、地域課題解決のためのネットワークとしての施設。

【ポイント】 まちの拠点

◆ 地域のつながり

- 市内の大学や高校との連携。
- 近隣（西宮・尼崎・吹田）図書館連携。
- 郷土史を学び、親しんでもらいたい。
- 未来ある子どもの意見の取入れ。
- 阪急電鉄との連携。

【ポイント】

地域学習、学校連携、社会的かかわり

◆ スペース

- 色々な世代の方が色々な目的で利用できる場所。
 - ✓ にぎやかなスペース（紙芝居）、親子で読めるスペース、
 - ✓ 静かなスペース（自習）
 - ✓ 公民館のような学びの場
 - ✓ ゆったりできる、リフレッシュ
 - ✓ 安心・安全な建物

【ポイント】 多様なスペース

◆ 場所

- 会社帰りに返却できる駅の近く。
- 図書館から離れた場所には移動図書館を活用したらどうか。
- 岡町に人が集まる場所がなくなってしまうのがさみしい。

【ポイント】 利便性、交流の場

◆ 司書・ボランティア

- 司書を活用したイベントの企画。
- 学校の司書との連携。
- 司書や住民、人がいる価値の尊重。
- 前へ出て「こんな本もおすすめですよ」と言ってもらえると楽しくなる。
- 司書の正職員化。
- 市民ボランティア

【ポイント】 司書の活躍

◆ デジタル・ITC

- 書籍のデジタル化やセルフ貸出など、今の時代に合った対応をしてほしい。
- 書籍のデジタル化・活字の魅力
- ITC活用による予約本受け取り

【ポイント】

時代に合った対応

◆ 運営・寄付

- 夜間時間帯の開館
- 返却期日から解放されたい。
- ニューヨーク公立図書館の財源は寄付。

【ポイント】

開館時間、寄付

(基本方針1) すべての市民の「わたしの図書館」へ
～図書館の多様な利用を提案～

(基本方針2) 知や情報とつなげる
～資源を生かし、市民の情報アクセスを保障～

(基本方針3) 未来へつなぐ
～持続可能な組織の構築～

第1回ワークショップの振り返り【C班】

◆ 基本構想から図書館への期待、中央館・地域館、人的資源等へのご意見

◆ 基本構想

- 基本方針のコンセプト「つながる。わたしの図書館で。」と基本構想が合っていない。
- スローガンと目指す方向が違う。
- 反対意見に対し丁寧な説明が必要。
- 経費削減、規模縮小との差が大きい。

【ポイント】構想の背景と目的

◆ 図書館への期待

- 電子書籍の拡充。
- 市史に関する資料の拡充。
- 高齢者の知恵を生かせる活動。
- 生涯学習サービスの場所。
- 尽きせぬ知の刺激の場所。
- 市の歴史に関する資料の収集

【ポイント】機能の拡充、生涯学習

◆ 他施設との連携

- 大学図書館との連携と役割分担
- 大阪だけでなく兵庫県下の北摂地域を含む図書館との連携。
- 学校図書館をサポートする。
- 子どもが集まる図書館。
- 子どもが本を読める環境。
- 留守家庭児童会の配本がなくなったことは残念。

【ポイント】市立図書館としての役割

◆ サービスポイント

- サービスポイントは図書館ではない。
- 利便性は上がるがつながりは営めない。
- 利便性と本のある/なしは違うので分けて考えてほしい。

【ポイント】サービスポイントの役割

◆ 中央館

- レファレンスを考えると良い。
- 質を上げるためには中央館に期待。
- 中央館は開放的で居心地の良い場所。

【ポイント】中央館の役割

◆ 地域館

- 中央館ができれば利用者は伸びるのかは疑問。
- 地域館を大事にして、中央館はそれらを補完するという形が、豊中の図書館らしいネットワークではないか。

【ポイント】地域館の役割

◆ 中央館の位置

- 阪急沿線より東側が空白地帯に近い。
- 空白地帯こそ図書館が必要。
- 千里中央からは遠い。

【ポイント】空白地帯への対応

◆ 人的資源

- 現状を踏まえて人的な問題を解決することが先である。
- 司書のスキルアップやレファレンスの充実など、研修によって質の向上が期待できる。

【ポイント】質の向上

(基本方針1) すべての市民の「わたしの図書館」へ
～図書館の多様な利用を提案～

(基本方針2) 知や情報とつなげる
～資源を生かし、市民の情報アクセスを保障～

(基本方針3) 未来へつなぐ
～持続可能な組織の構築～

第1回ワークショップの振り返り【D班】

◆ コンテンツ・サービス・スペース、時間・立地、マネジメント等へのご意見

◆ コンテンツ

- ・ 「魅力的な蔵書」や「おすすめ本の紹介」などテーマ別に分けてほしい。
- ・ 一目で分かりやすく手に取りやすい工夫をしてほしい。
- ・ 人気の本の冊数を増やす。
- ・ コミックの量を増やす。

【ポイント】 紹介の工夫、人気コンテンツ

◆ サービス

- ・ 読み聞かせを増やしてほしい。
- ・ 様々なイベントが実施されている。
- ・ 本への興味を引く展示がある。

【ポイント】 親しみ・楽しみ

◆ スペース

- ・ 自習スペースを設けてほしい。
- ・ グループで議論をしたり調べ物をしたりするスペースを設けてほしい。
- ・ 座席数を増やしてほしい。
- ・ 場所がないと、何もせず帰ってしまう方がいるので惜しい。
- ・ パソコンスペース
- ・ 本の持ち込み・飲食のできるスペース
- ・ 静かにするスペースとおしゃべりできるスペースの分離
- ・ 明るいスペース
- ・ リラックスできる空間

【キーワード】

自習、座席数、グループ利用、飲食
静寂と会話、明るい・リラックス

◆ 時間

- ・ 仕事帰りに立ち寄りたい。
- ・ オフィス街に出ている会社員などは利用できない。
- ・ 朝早くから夜遅く（21時くらい）まで開いていると良い。

【ポイント】 早朝・夜の利用

◆ 立地

- ・ 利便性の良いところ。
- ・ 駅やバス停から近いところ。
- ・ 家から近い。
- ・ 仕事帰り、買い物帰りに寄れる。
- ・ 仕事帰りに電車を降りて、図書館に立ち寄って、また電車に乗って帰宅する、などが気軽にできると良い。

【ポイント】 駅やバス停の近さ、立ち寄り

◆ 職員

- ・ 司書さんに「こんにちは」と挨拶されたり話しかけられたりすると、ほっとする。
- ・ 親しみやすい司書さんがいると図書館に来るのが楽しく嬉しくなる。

【キーワード】 親しみ・楽しみ

◆ 設備

- ・ 殺菌スペース（BOX）がある。
- ・ 読書記録（借りた本の記録）が残るものがある。

【キーワード】 殺菌、読書記録

◆ マネジメント

- ・ 単なる利用拡大だけを目指すべきでない、有料化も考える

【キーワード】 持続可能な経営

（基本方針1） すべての市民の「わたしの図書館」へ
～図書館の多様な利用を提案～

（基本方針2） 知や情報とつなげる
～資源を生かし、市民の情報アクセスを保障～

（基本方針3） 未来へつなぐ
～持続可能な組織の構築～

第2回ワークショップとの関連（例）

- ◆ 第1回ワークショップでは、下記のような図書館への期待がありました。
- ◆ 第2回では中央館・地域館・分館のそれぞれへの期待について意見交換を行います。

◆ アーカイブの活用

- 生涯学習の場として中核の図書館。
- 文教の街にふさわしい施設。
- 図書館アーカイブと芸術センターとのつながり。
- ニューヨーク公共図書館のような、地域課題解決のためのネットワークとしての施設。

【ポイント】 まちの拠点

◆ 知るきっかけ

- 購入図書を選別

【ポイント】
情報リテラシー、知識の広がり

◆ スペース

- 色々な世代の方が色々な目的で利用できる場所。
 - ✓ にぎやかなスペース（紙芝居）、親子で読めるスペース、
 - ✓ 静かなスペース（自習）
 - ✓ 公民館のような学びの場

【ポイント】 多様なスペース

◆ スペース

- グループで議論をしたり調べ物をしたりするスペースを設けてほしい。
- 本の持ち込み・飲食のできるスペース

【キーワード】
グループ利用、飲食

◆ 中央館

- レファレンスを考えると良い。
- 質を上げるためには中央館に期待。
- 中央館は開放的で居心地の良い場所。

【ポイント】 中央館の役割

◆ 地域館

- 中央館ができれば利用者は伸びるのかは疑問。
- 地域館を大事にして、中央館はそれらを補完するという形が、豊中の図書館らしいネットワークではないか。

【ポイント】 地域館の役割

◆ 人的資源

- 司書のスキルアップやレファレンスの充実など、研修によって質の向上が期待できる。

【ポイント】 質の向上

地域課題の解決につながる
図書館

多様な利用を実現する
図書館

レファレンスの質が向上する
図書館

それぞれの館でどのような期待があるのか意見交換

ワークショップのテーマ (中央館・分館・地域館)



基本構想：施設配置の概要

- ◆ 基本構想では中央館を中心に、各施設の位置付けと役割を「施設階層」として明確化し、施設配置の方向性を示しています。
- ◆ 配置を概ねの規模感を定めています。

表 中央館を中心とした施設配置と想定規模

位置付け (施設階層)	施設数・配置	想定規模
中央館	1施設を市の中心エリアに整備	5,000m ² 程度
地域館	2施設（庄内・千里）	庄内 1,000m ² 程度（専有部のみ） 千里 2,379m ² （共用部含む）
分館	中央館・地域館を補完 （数施設に集約）	各500m ² 程度

基本構想：位置付け（施設階層）ごとの機能

◆これまでの課題

- 原則的に全館一律のサービスを提供。
- その反面、資源（資料や人材）分散等の課題あり。



◆今後の対応

- 適切な場所に資源を集約し、多くの資料にワンストップでアクセスできる体制
- 専門性の高いサービスの提供体制をより強固なものとする。
- 予約資料の受取・返却という身近にあることが望ましい機能は、そのサービスを受けられる場所を増やす。



施設の位置付け（施設階層）に即した機能（サービス内容）の配置

基本構想：位置付け（施設階層）ごとの機能

◆ 基本構想では機能・提供するサービスは下表のイメージを例示しています。

表 機能・提供するサービスのイメージ（一例）

位置付け	役割	機能・提供するサービスのイメージ（一例）			
		書庫 選書機能	リファレンス他 専門性を 要する機能	蔵書	予約資料 受取返却
中央館	あらゆる図書館 サービスの中心	大規模書庫 選書機能あり	中心機能	課題解決に役立つ 専門書等も充実	○
地域館	庄内・千里地域における 中央館機能の補完	小規模書庫	地域特性を 踏まえて設定	地域課題に沿った 専門書も充実	○
分館	中央館・地域館より身近な 本と親しめる空間	—	初期対応・窓口	汎用性の高い 資料が中心	○

本日のテーマ：中央館・地域館・分館への期待

- ◆ 前頁の例示に対し、各館の「①期待される役割」への追加アイデア出しを行い、「②期待される機能などの項目」を設定し、「③各館に期待されるアイデア」について、各班での意見交換をお願いします。

表 ●班 各館への期待

位置付け	役割	蔵書	サービス	スペース
中央館	あらゆる図書館サービスの中心				
地域館	庄内・千里地域における中央館機能の補完				
分館	中央館・地域館より身近な本と親しめる空間				

①期待される役割への追加アイデア

②期待される機能などの項目を設定

③各館に期待されるアイデア

ワークショップの進め方



意見交換の方法について

意見交換を行うにあたっては、**ワークショップ**形式で実施します。

- 計画案の作成には、アンケート調査やパブリックコメントのように単方向でなく、様々な立場の市民のみなさまが意見交換を行いながら検討することが必要です。
- また、多様な視点からのアプローチやこれまでになかったアイデアが必要です。

OK!



ワークショップとは

共通の課題を設定して、これを解決するために参加者がともに議論・協働作業を通じて、お互いの考え方や違いを学び、協力し合いながら解決案などをまとめていく作業です。

NG



ワークショップのルール

- ・ 人の意見を否定しない
- ・ 自分と違う意見も尊重する
- ・ お互いの話をよく聞いて、積極的に意見交換

ワークショップの進め方

司会が順番に振るので、改善策などの意見を発表してください。また、意見はポストイットに記入してください。

〇〇さんが考える
図書館に対するご意見をお聞かせください。

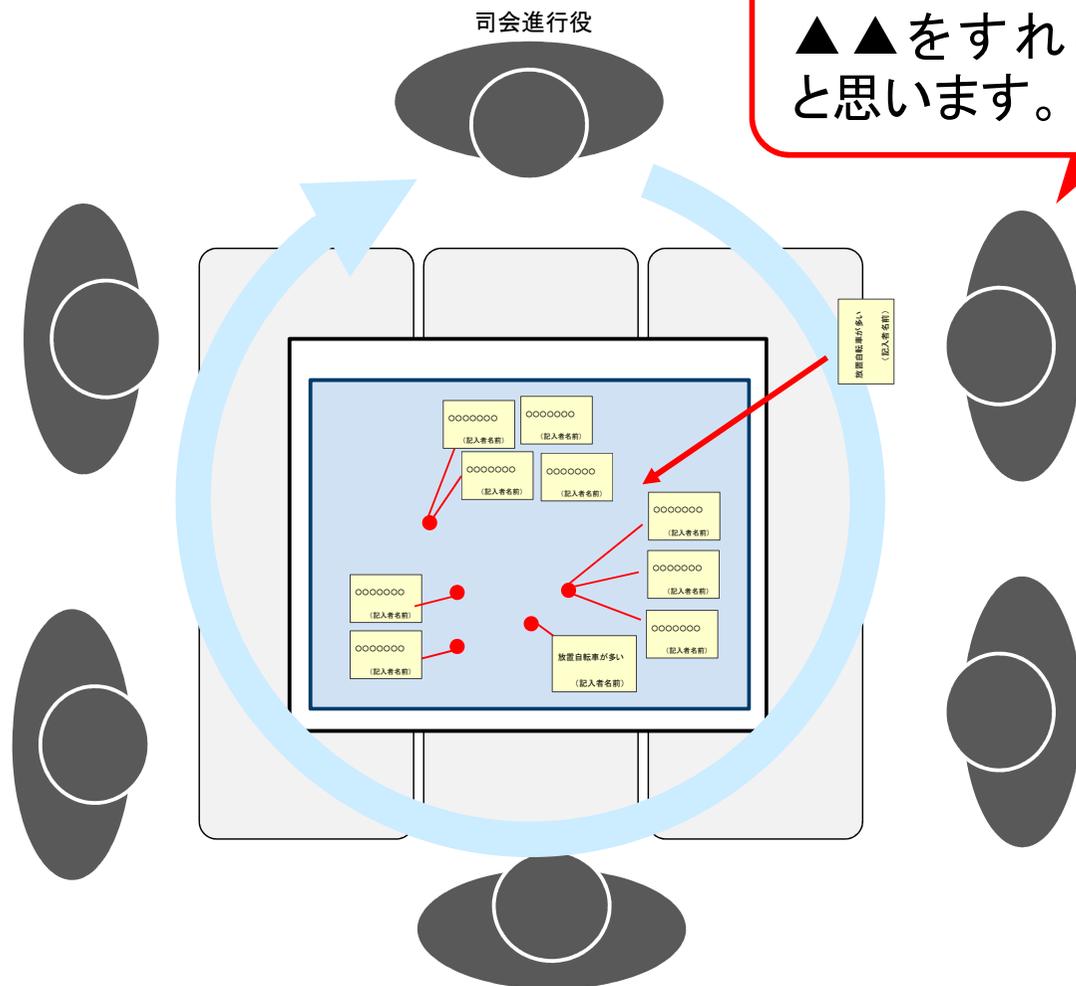
司会進行役

私は〇〇について、
▲▲をすればよい
と思います。

〇ポストイットイメージ

アクセスしやすさ
に向けた▲▲の実施

ポストイットはたくさんあるので、**1枚に1つの項目**を記入



～ご説明は以上になります～

